



尼崎市

お問合せ

尼崎市 シティプロモーション推進部 シティプロモーション事業担当

TEL : 06-6489-6385 (イベント時 06-7163-7108)

FAX : 06-6489-6793

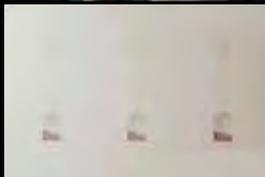
E-mail : amalove.a.lab@gmail.com

A-Lab

archive

vol.15

A-Lab archive



A-Lab Exhibition Vol.13

新鋭アーティスト発信プロジェクト

A-Lab Artist Gate 2018

稲本紗希

柏原文音

ザラ・ヘントリジアク

助石一枝

中川亮二

三枝愛

村田真子

あまらぶアトラボ A-Lab archive vol.15

A-Lab Artist Gate 2018

■ 出展作品		3
稲本紗希	3	
柏原文音	5	
ザラ・ヘントリジアク	7	
助石一枝	9	
中川亮二	11	
三枝愛	13	
村田真子	15	
■ アーティスト・トーク		17
■ 展覧会フライヤー・会場配布資料		27

稲本紗希

Inamoto Saki



《いくつかを記憶し、いくつかを忘れる》毛糸／サイズ可変／2017-18

印象に残りやすい時間以外を記憶することは難しい。確かに過ごしたはずの時間のこともいつの間にか忘れてしまう。私たちは、生きている中で一体どれだけの時間を忘れてしまっている(記憶している)のだろうか。

目の前を過ぎていく時間を毛糸に編み込むことで、過ごした時間があることを残しておこうとする。

一目づつ積み重なった毛糸の塊を見た時、その時間のことを思い出せるのだろうか。



1995年生まれ。三重県出身。京都造形芸術大学美術工芸学科総合造形コース卒業。現在、京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻に在籍。

【受賞】 京都造形芸術大学卒業制作展 奨励賞(2018)

【展覧会】 鳥肌展(ギャラリーマロニエ/京都/2017)、呼吸でハイタッチ(ギャラリーマロニエ/京都/2017)、愛とテロリズム(ARTZONE/京都/2017)



柏原文音
Kashihara Ayane



小さな「富嶽三十六景」を消しゴムはんこで起こしました。そしてはんこを何度も押し、重ねて大きな「青富士」を制作しました。

有名なことわざで「塵も積もれば山となる」があります。意味は“どんなに小さなことでも積み重ねていけばやがて大きな山になる”です。この作品をつくったことが「これから」につながると思っています。



1995年生まれ。大阪府出身。京都精華大学芸術学部版画コース卒業。消しゴムはんこで葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景」を彫り起こす、「私の富嶽」シリーズを制作している。

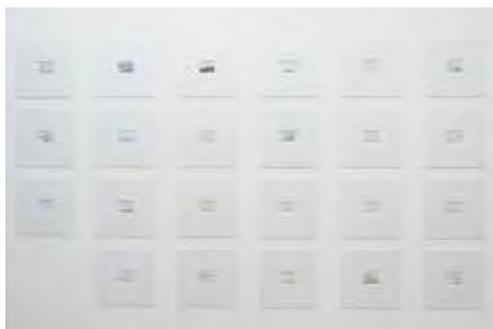
【受賞】THE COMPE きものと帯 西陣織工業組合理事長賞(2015)、アワガミ国際ミニプリント展 入選(2017)、全国大学版画展 優秀賞(2017、町田市立国際版画美術館に収蔵)



《No.47》消しゴム版画／新鳥の子紙、雁皮紙／1300×1897mm／2017



《No.47》(部分)



《三二富嶽判子図》消しゴム版画、一版多色／新鳥の子紙
25×36mm×46枚／2017

ザラ・ヘントリジアク

Sarah Hendrysiak



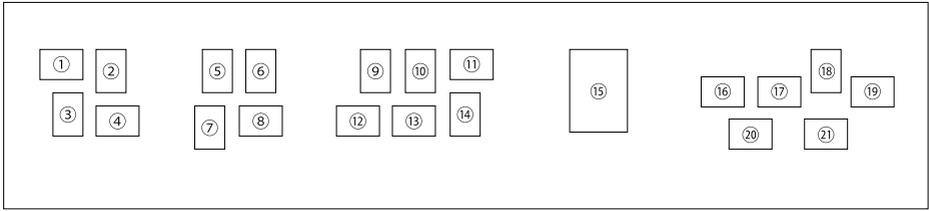
《コミュニケーション》インクジェットプリント／21点組／2018

こちらの方向に視線を向けている写真、また反対方向に向いている写真、交差している写真があります。これらは見つめ合っています。コミュニケーションという意味合いの中でどのくらい距離を持たせることができるのか試してみるために選んだ作品です。

コミュニケーションの意味を考える中で、今回の展示が浮かびました。なぜならばアートとはある種のコミュニケーションなのです。その国の言葉をしゃべらなくても、文化を分かち合う事が出来る。これもコミュニケーションの形です。



1992年生まれ。ドイツ・アウクスブルク市出身。DIE GREAPHISCHE Wien 卒業。セルフ・ポートレートを中心に作品を制作。マンガ、Jポップ、ビジュアル系、吉本ばななや宮崎駿など日本文化に影響を受けている。尼崎市とアウクスブルク市の姉妹都市間での若手アーティスト相互派遣事業のアウクスブルク市推薦作家。



- | | |
|--|---|
| ① 《シュタットベルゲン（セルフポートレート）》
420×297mm / 2014 | ⑫ 《ユリア》 420×297mm / 2015 |
| ② 《パウル》 297×420mm / 2015 | ⑬ 《無題（セルフポートレート）》
420×297mm / 2015 |
| ③ 《無題》 297×420mm / 2014 | ⑭ 《無題》 297×420mm / 2014 |
| ④ 《鏡（セルフポートレート）》 420×297mm / 2014 | ⑮ 《2つのポートレート（セルフポートレート、母と）》
420×594mm / 2013 |
| ⑤ 《無題》 297×420mm / 2013 | ⑯ 《無題》 420×297mm / 2014 |
| ⑥ 《拉致（セルフポートレート）》 297×420mm / 2013 | ⑰ 《無題》 420×297mm / 2011 |
| ⑦ 《無題》 297×420mm / 2014 | ⑱ 《無題》 297×420mm / 2014 |
| ⑧ 《深海潜水》 420×297mm / 2014 | ⑲ 《無題》 420×297mm / 2011 |
| ⑨ 《ルーカス》 297×420mm / 2013 | ⑳ 《カトリーネ》 420×297mm / 2014 |
| ⑩ 《無題（セルフポートレート）》 297×420mm / 2013 | ㉑ 《無題》 420×297mm / 2011 |
| ⑪ 《フリーダ（セルフポートレート）》
420×297mm / 2014 | |



助石一枝

Sukeishi Ichie



《呼吸を見つめて》 ハーネミューレ紙、インク / 6点組 / 2018

右端：《紅茶》 390×680mm / 2018

右から2番目：《木》 600×840mm / 2018

考え方や行動、身体の健康は何らかの行為を繰り返すことによって支えられていると私は考えています。その何らかの行為(例えば食事、睡眠、衣服の着脱、読書、化粧、独自のルーティーン等)を繰り返すことによって生まれてくる安心感をテーマに作品を制作しています。



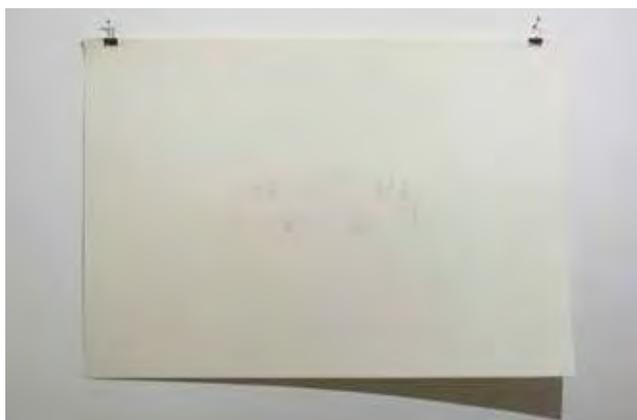
1995年生まれ。高知県出身。京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コース卒業。現在、愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画・版画領域に在籍。考え方や行動、身体の健康は小さな行為を繰り返すことによって支えられていると感じ、そのことによって生まれてくるものをテーマに制作している。

【展覧会】Lurk 見えない版(綾小路ギャラリー武 / 京都 / 2017)



左：《貝》350×270mm / 2018

右：《ガーゼ》350×270mm / 2018



《爪》520×760mm / 2018



《綿毛》(部分) 420×300mm / 2018

中川亮二
Nakagawa Ryoji



《石に巡らす／roll it over》石、電球、MDF、モーター、鉄／サイズ可変／2018

太陽、石の影、僕たち、周りのものは動き続けている。

何百、何千年とどこかで佇んでいた、それまでの膨大な時間が石には埋め込まれている。

時間という目には見えない大きなものが僕たちや石を取り囲んで流れているのだ。

石はそこから静かに見ている。



1995年生まれ。愛知県出身。京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業。現在、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻に在籍。石の模様やかたち、佇まいから、それが持つ時間や起源に思いを巡らせ制作している。

【受賞】京都市立芸術大学作品展 同窓会賞（2017）



15分おきに、天井から吊るされた裸電球が石の周りを回転する。



三枝愛

Mieda Ai



《庭のほつれ》 おがくず、原木、木片、椎茸用封蝋、瓶、紙座布団、作文用紙に鉛筆、麻紙にコロタイプ印刷・彩色、アクリル板／サイズ可変／ 2015-2018

庭のほつれ / 何かの要因で保たれて来た秩序が乱れること、庭のように親しんでいた場所に何か欠けてしまった状態をそう呼ぶ。

「箱」を残すための手立て / ものに合わせてつくられたはずが何かの事情でものとはぐれてしまった箱のために中身をつくる。

元公民館であり、今でも一階は保育所として使用されているこの場所に、わたしの庭を移築し留め置くこととする。



1991年生まれ。埼玉県出身。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了。ものに込められた意志を預かっている。

【受賞】 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017 O JUN 賞 (2017)、群馬青年ビエンナーレ 2017 群馬の森野外展示作品賞 (2017)

【展覧会】 石が残っている / Will is left (小金井アートスポットシャワー 2F / 東京 / 2017)



村田真子
Murata Mako



《くよくよするなよ、踊れ》陶器／半磁器土／1600×1100×1600mm／2018

私は粘土で制作した立体物に魅力的だと思う人物を描き、作品を制作している。

その魅力的な人物像とは、社会的に弱い立場にいる、見えない何かに押し潰されそうな人物、自由がきかない人物達だ。私はそのような人物にこそ計りしれない力が腹の底に眠っており、生きていることに絶望しながらも生きる力に溢れていると思っている。

日々の悲しみや辛い事も違う角度から見ると面白いという事を他者に気づいてもらうため制作している。



1993年生まれ。大阪府出身。京都精華大学大学院芸術研究科陶芸領域修士課程修了。半磁器土で成形した立体物に、自身が魅力的だと思う人物を描いている。

【展覧会】PLAY ROOM (ギャラリー恵風／京都／2017)、キテミテ中之島 2017 (京阪電鉄大江橋駅／大阪)、船外記録 (ギャラリー恵風／京都／2017)



左から：

- | | |
|------------|-------------------------------|
| 《社会人 1 年目》 | 陶器／半磁器土／ 110×170×170mm / 2015 |
| 《雨の日は》 | 陶器／半磁器土／ 170×170×270mm / 2014 |
| 《無題》 | 陶器／半磁器土／ 180×180×230mm / 2016 |
| 《いざ、女子校へ》 | 陶器／半磁器土／ 160×120×220mm / 2014 |
| 《社会人 2 年目》 | 陶器／半磁器土／ 140×220×260mm / 2016 |
| 《子供は外であそべ》 | 陶器／半磁器土／ 150×220×220mm / 2014 |

